

1 研究主題

実感を伴った理解をする子の育成

～子どもの実感した内容を表出させる、計画的な言語活動を通して～

2 研究主題設定の意図

子どもの実感を伴って理解した姿をどのように判断するかが、昨年度までの大きな課題であった。実感とは子どもの感覚であるため、教師の判断が困難だからである。そこで、今年度は、実感を伴った理解をした子は、言語活動で適切に表現できると考え、言語活動を重視した研究に取り組んでいる。具体的には、

- ・子どもの素朴な考えや疑問を言葉や図、絵などに表させる。
- ・「もし～ならば…のはずだ」などの定型文を与えて表現させる。
- ・ある程度ルールを決めたモデル図などを提示し、子どもの考えを表出・交流させる。
- ・結果を表や図に表し、仮説と関係づけて、自分の考えを表現させる。

などを充実させることで、実感を伴った理解につなげたり、その姿を判断したりしていく。

3 事業の実際

○5月 研究部役員会による研究計画の検討

○6月 理科部全体会

- ・研究計画について意見交換
- ・ブロック部会

○7月 ブロック部会 ブロック研究計画の検討

○8月 ブロック部会 指導案及びレポート検討会

○9月 ブロック部会 指導案及びレポート検討会

○11月 <授業研究>

- ・中央・西ブロック…4年「自然の中の水」西野 晃司 教諭（小針小）
- ・秋葉・南・西蒲ブロック…5年「人のたんじょう」岡田 俊二 教諭（潟東西小）
<講習会>

・北・東・江南ブロック

村山稔教頭による「教えて考えさせる学習の導入」の講習会

○12月 <授業研究>

- ・中央・西ブロック…3年「じしゃくのひみつ」千野 光仁 教諭（上所小）
- ・秋葉・南・西蒲ブロック…3年「じしゃくのひみつ」渡邊 智宏 教諭（大通小）
- ・北・東・江南ブロック…5年「もののとけかた」村山 稔 教頭（木戸小）

○1月 理科部全体会

- ・各ブロックによる研究の成果の発表
- ・来年度に向けての反省会

○2月 研究部役員会による反省会